

経済

(1) 生産性向上と新たな価値創造の創出 23

経済1 第4次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備

経済2 環境・エネルギーフロンランナー富山の創造

経済3 バイオ技術等を活かした「世界に注目される薬都とやま」の創出・新展開

経済4 成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立

経済5 北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化

(2) 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開 29

経済6 「とやまグローバル戦略」の推進

経済7 富山きとときと空港における国内外の航空ネットワークの更なる展開

経済8 選ばれ続ける観光地 富山

(3) 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進 33

経済9 生産年齢の引き上げによる高齢者の活用促進（「かがやき現役率」の向上）

経済10 若者、女性、障害者活躍のためのキャリア促進

文化

(4) 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成 36

文化1 アート・デザイン県とやまの創出

文化2 未来へ示すクリエイティブな文化（クールトヤマ）の形成

文化3 海・山近接の富山の魅力を活かした「中山間ニューライフコミュニティ」の形成による里山振興

(5) 世界に開かれた「とやま文化」の発信 40

文化4 世界への発信による「とやまの文化GDP」の拡大

文化5 舞台芸術拠点「TOGA」による地域の活性化

文化6 富山サポーターグローバルネットワークの構築

文化7 とやま食文化の振興・展開

(6) 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引 45

文化8 学校と地域でつくる文化の担い手育成

文化9 芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出

文化10 文化芸術資源をもとにした文化芸術クラスターの形成

人づくり

(7) 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立 49

人づくり1 未来のイノベーションを起こすために必要な人材の育成

人づくり2 未来社会が求める人材を輩出する新たなキャリア教育システムの確立

(8) ふるさと学習とグローバル教育の融合（Think global, Act local） 52

人づくり3 富山が誇る「ふるさと富山」の探究

人づくり4 郷土を学び英語で伝えるコミュニケーション能力の養成

人づくり5 大学や高校におけるグローバルな教育環境の整備

(9) 地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上 56

人づくり6 地域共生社会推進のための地域人材づくり

人づくり7 健康寿命日本一とやま

人づくり8 スポーツ活動を通じた県民総活躍の推進

人づくり9 最先端地域交通システムによる交流促進

人づくり10 最先端技術を活かした「防災先進県とやま」

<参考>富山県経済・文化長期ビジョン懇話会及び青年部会委員名簿 62

(1) 生産性向上と新たな価値創造の創出

～労働力減少に対応した生産性向上とストックを活かした
新たな需要創出を図る「とやまバリュー」の創造～

<展開方向の目標>

本県の製造技術を活かし、第4次産業革命による技術革新に対応した「富山型スマート工場」を県内の各工場で普及させるとともに、アルミ等の富山の強みである材料技術によるイノベーション、環境に優しい再生可能エネルギーの活用、水素社会の構築、バイオ技術を活かした「世界に注目される薬都とやま」の創出、ロボット技術など先端技術を利用した生産性・付加価値の高い農林水産業の振興を進めます。また、大阪への早期延伸・全線開通による「新ゴールデンルート」と現在の東京・名古屋・大阪を結ぶゴールデンルートとの環状新幹線化により生まれる一大交流経済・文化圏である「大ゴールデン回廊」において本県の拠点性を高め、県内製品・サービス等に対する新たな需要を国内外に創出し、「とやまバリュー」の創造を目指します。

<構想>

- 経済1 第4次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備
- 経済2 環境・エネルギーフロンティア富山の創造
- 経済3 バイオ技術等を活かした「世界に注目される薬都とやま」の創出・新展開
- 経済4 成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立
- 経済5 北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化

<ビジョンを実現した際の2045年のイメージ>

北陸新幹線は大阪まで開業し、自然、文化、産業、食が豊かな富山県は、観光でも企業の集積でも有名に。近所の小さな工場は、実はバイオ医薬品のベンチャー。以前はバイオ医薬品は大変価格が高かったのですが、富山県の産学官が開発した画期的な生産技術と、県内に設置された受託製造プラントで、今ではバイオ医薬品を迅速・安価に生産できるようになりました。このベンチャー企業が開発したバイオ医薬品は、今では国内・欧米はもちろんのこと、発展途上国でも広く使われています。富山県内の大学と製薬企業は、アフリカを始め発展途上国の人々が最先端の治療を受けられるようにしたとして、いくつもの国から表彰されています。このベンチャーの新規事業は、再生医療。同じ町内の細胞を培養する企業とタイアップして、北陸の再生医療の拠点を目指しているようです。天然のいけすである富山湾では産学官連携により、ついに定置網や大規模養殖にICT技術を導入した「富山湾海洋牧場」の経営が軌道にのりました。富山の四季折々の美味しい魚が楽しめるようになり、海中レストランは若者たちのデートスポットとしてもブームです。人類が宇宙に飛び出していく時代、富山のアルミ技術等を活かした宇宙太陽光発電システムは世界の技術者たちの夢。私の家のスマートハウスもそうですが、太陽光に加え、再生可能エネルギーで各家庭や企業の電力が地産地消で賄われています。水素自動車の値段は昔の石油で走っていた車よりも安いくらい。富山の再生可能エネルギーから産み出された水素を使った水素カーでみんなが通勤通学するようになり、富山環境モデルによる環境タウンは世界標準になっています。



<概要>

- 県内産業が「第4次産業革命」の波に乗り遅れることなく、また、勝ち抜くため、IoT、ビッグデータなどの活用を進めるとともに、ナノテク、高機能素材など、富山の強みである素材分野の技術を活かし、ものづくり研究開発センター、県立大学、富山大学等が連携するオープンイノベーションにより、新たなビジネスモデルの創出、宇宙・航空機分野など成長が見込まれる産業への参入を目指します。

<新たに講ずべき施策>

- 県内企業の生産性の飛躍的な向上を図るため、県内全域に、関連工場の生産設備の稼働データをインターネットで収集・分析し、加工・組立てなど生産工程を効率化することを目的とした、県内企業向けにカスタマイズされた「富山型スマート工場」を普及します。



IoTによる世界の工場の一体化

- 富山県産業の強みである材料技術、例えばアルミ、マグネシウム合金やバイオナノファイバーなどの素材を活かすとともに、他の機関のアイデアを組み合わせることによる革新的な技術開発や、製品開発のスピードアップを図るため、県工業技術センター、ものづくり研究開発センター、富山大学、県立大学等が連携し、オープンイノベーションによる研究開発を進める世界トップレベルの国際的な材料科学研究拠点づくりを目指します。
- 電気エネルギーで走る完全自動走行車の部品供給拠点をめざし、セルロースナノファイバー等のナノテクや、CFRP（炭素繊維強化樹脂）、マグネシウムなど高機能素材の組み合わせによるマルチマテリアルを活用した次世代自動車用の材料について加工技術の開発や、3Dプリンターを活用したカスタムメイドの生産システムの開発を進めます。
- 炭化珪素（SiC）繊維の製造メーカー（現時点で世界で2社のみ）の技術を活用し、航空機エンジンやガスタービン用ブレード（羽根）やロケットエンジンノズル、耐熱タイル等の耐熱高強度材料であるCMC（セラミックス基複合材料）のほか、アルミの技術を活用したロケットエンジンの液体燃料（水素、酸素）タンク（水素タンクにはアルミが最適）、宇宙太陽光発電（送電）システム（アルミを用いた送電・受電用大型アンテナ）など、富山のものづくり技術を活かした宇宙・航空機に係る技術開発の研究検討を進めます。

<概要>

- G7 富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」を発展させ、環境にも人にもやさしいライフスタイルを推進するとともに、低炭素・循環・自然共生型の社会づくりを進め、「環境・エネルギーフロントランナー」を目指します。
- 化石燃料依存をできる限り減らし、温暖化の防止に貢献することは喫緊の課題であり、地熱資源量や包蔵水力が全国2位である富山の強みを活かした地熱・小水力等の再生可能エネルギーの利活用の促進や、水素等の新たなエネルギーの普及の加速化により、アルミ等の富山のものづくり技術を活かした「水素社会」の構築を目指します。

<新たに講ずべき施策>

- 食品ロス・廃棄物対策や廃棄物需給のマッチングなど、資源効率性・3R (Reduce、Reuse、Recycle) の取組みを推進し、ゼロエミッション^(※)社会の実現を目指します。

※ ゼロエミッション：廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用により、全体として自然界への廃棄物の排出をゼロ

- 太陽光発電や小水力発電などの小規模な分散型電源を相互に結び、無駄の少ない効率的な運用を可能にするマイクログリッドシステムの整備による、次世代スマート工業団地づくりを進めます。(産業部門)

- 太陽光発電や省エネ機器、断熱窓等の導入を促進し、エネルギー消費量が正味でゼロとなる「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」を普及します。(民生家庭部門)



- 地熱発電は、昼夜を問わず安定した発電が可能であり、発電時に二酸化炭素を排出しません。また、県内には全国第2位の豊富な地熱資源があることから、地域特性を活かした地熱発電所を建設します。また、包蔵水力も富山県は全国2位であり、環境に配慮した小水力発電を推進します。

- 将来の純国産エネルギーとして期待される表層型メタンハイドレート^(※)の資源開発に関して、国とも連携しながら調査研究を進めます。

※ メタンハイドレート：低温・高圧の条件下で、水分子にメタン分子（天然ガス）が取り込まれ、氷状に存在する物質

- 官民一体となって県内における燃料電池車 (FCV) や水素ステーションを普及拡大します。水素保存用タンクの方法には、アルミが最適であることから、県内のアルミ産業の技術を活用し、工業技術センター、ものづくり研究開発センター、県立大学、富山大学等と連携したオープンイノベーションにより、水素保存・タンクの製造技術等に関する研究開発を進めます。水素の貯蔵、輸送については、メタンに変換して行う方が効率的であるため、県内大学での知見も活かし、研究開発を進めます。こうして、水素を日常生活や産業活動で利活用する、富山の技術を活かした「水素社会」の構築を目指します。

- 再生可能エネルギー等の活用に当たっては、その生産地域での消費を拡大し、環境に配慮したスマートコミュニティの構築を目指します。

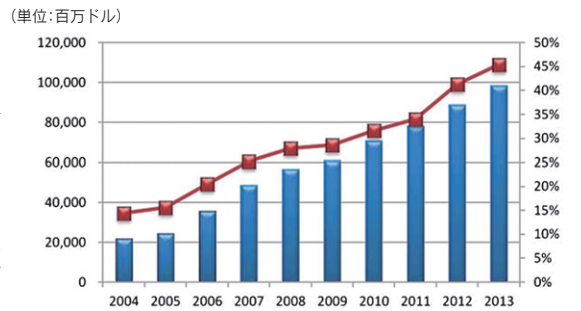
<概要>

- 富山県の医薬品産業の伝統や技術を礎にして、バイオ技術を活用した医薬品等の最先端分野の研究開発に取り組み、「世界に注目される薬都とやま」の創出を目指します。
- バイオ医薬品や高度な複合製品等の研究開発を支援する体制の整備に取り組み、バイオ医薬品等の研究開発及び製造販売、そしてこれらの産業を支える人材の育成及び供給に関する拠点化を目指します。

<新たに講ずべき施策>

- 県内製薬企業の製剤開発力・製造技術力をさらに高めるとともに、バイオ医薬品等の高付加価値製品の研究開発を促進するため、研究開発用の共同利用機器を拡充するなど、県内における研究開発支援体制の強化に取り組みます。
- 医薬品分野とその他の分野のものづくり技術が融合した高付加価値な複合製品の開発や、バイオ医薬品や再生医療関係製品等の画期的な製品の製造機器の開発が促進するよう、県内の医薬品メーカーとものづくりメーカーの連携促進に取り組みます。
- 県立大学の研究実績（戦略的創造研究事業（ERATO））や国の大型プロジェクトの成果（北陸ライフサイエンスクラスター）を活かし、環境負荷の少ない酵素反応を活用した高分子医薬品の生産体制を確立します。様々な有機物質の合成反応に用いられる酵素（生物由来物質の触媒）の探索研究への支援を進めます。
- 県立大学に設置する医薬品工学科や、県内大学等と連携した取組みにより、医薬品産業を支える人材の育成・供給に取り組みます。県外の医薬品関係の機関と県内の産学官の交流を促進し、本県が国内の医薬品産業関係の人材の「ハブ」となることを目指します。
- PMDAアジア医薬品・医療機器トレーニングセンター研修所等と連携し、アジア地域等の行政官や医療関係者とのネットワーク構築を図ることで、県内医薬品産業の国際展開の促進に取り組みます。
- 再生医療分野への参入促進は今後重要（経済産業省によれば、世界市場規模：1,000億円（2012）→38兆円（2050））ですが、本県では大学医学部等の研究機関の研究成果を基に、創傷被覆剤（傷口を覆う絆創膏・例えばアムノス社が生産販売を目指している乾燥羊膜など）の製品化が大学発ベンチャー企業により取り組まれており、今後さらに、人工臓器等の作成など再生医療に関する研究開発や起業化を支援するほか、先進技術を保有している企業を誘致し、県内の再生医療に関する資材・機器の生産拠点の形成を図ります。

世界上位50品目におけるバイオ医薬品の売上高・率



(出典) CSDユート・プレーン事業部発行「Pharma Future」

<概要>

- 世界人口の増加や発展途上国の所得・生活水準の向上といった潮流の中での食料の安定確保や、TPP協定の合意などグローバルな視点も踏まえ、富山県ならではの豊かな食を育む広大な水田や富山湾、水と緑に恵まれた県土を支える豊かな森林を十分に活かし、成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立を目指します。また、若い後継者が夢を持って就業できるよう、今後さらなる進展が予想される最先端技術の活用など生産性・付加価値の高い農林水産業を振興します。

<新たに講ずべき施策>

- 本県農業の特長である整備された水田を活かし、GPSや高性能センサー、ロボット技術を組み込んだ農業機械（無人走行自動作業トラクタやチューリップ栽培用ロボット等）、熟練農業者のノウハウを蓄積するAI機器、ICTやセンシング技術を取り入れた栽培管理システムなど、ものづくり県である本県の強みを活かした先端技術を農業分野に導入しつつ、水田の大区画化を進め、これらの技術と基盤の相乗効果により、超省力化された生産性の高い「とやま型水田スマート農業」の構築と夢のある農業の次代への継承を目指します。



「ロボット農機（可変施肥田植機）」
～ほ場の肥沃度に応じて施肥量を自動調節～

- 生活習慣病等を予防する健康機能性や高温耐性などを持つ水稻新品種や高い国際競争力を持つ富山オリジナルチューリップ品種を育成するとともに、地域資源エネルギーを活用した次世代型園芸施設等を核とした収益性の高い園芸作物の生産拡大を図り、「食の王国とやま」づくりを推進します。

- 国民病ともいわれる花粉症対策として、本県が全国に先駆けて開発した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」を積極的に全国にも普及し、主伐期を迎えた人工林の伐採・利用と再生林を推進することにより、我が国の「スギ花粉症ゼロ社会」の実現を目指すとともに、CLT（ひき板を直交方向に積層した材料）工法による県産材の中高層木造建築物への活用を促進し、将来にわたり森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を目指します。



「立山 森の輝き」の植栽

- 「天然のいけす」とも称される富山湾の特性を活かした新たな海洋ビジネスとして「富山湾海洋牧場」を形成します。具体的には、富山湾の急峻な地形や海洋深層水等を利用し、表層から深海までの多層型養殖や、栄養豊富な海水を活用したイワガキや海藻類などの無給餌養殖を展開するほか、水産業にICT技術（情報通信技術）を導入し、定置網の自動網揚げ装置による省力化や小型カメラ等による定置網内における魚群の遠隔監視などにより流通業者に水揚げの魚介類をリアルタイムに知らせるなど、漁労作業の効率化と生産性の向上を図ります。また、海洋レジャーや海中レストランなどの観光業との連携による6次産業化を推進します。

<概要>

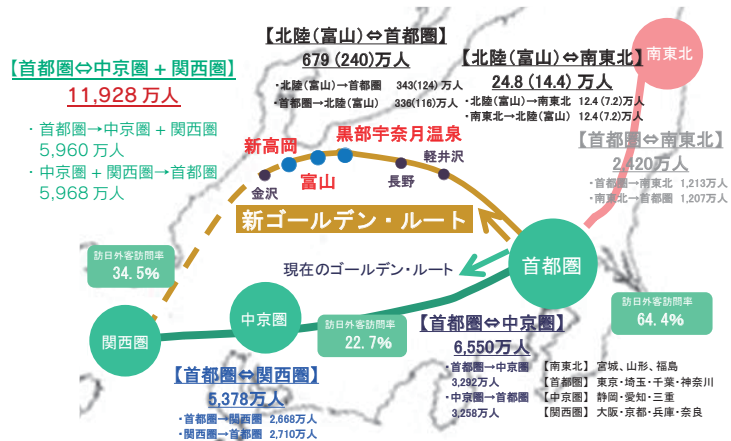
- 北陸新幹線の開業により、首都圏と北陸の旅客流動が飛躍的に増加するなど、先行した他の整備新幹線を大きく上回る開業効果が生まれています。この効果をさらに高めるためにも京都・大阪への早期延伸・全線開業を目指します。北陸新幹線が大阪まで開業すれば、北陸経由で東京と関西を結ぶ「新ゴールデンルート」が形成されます。「新ゴールデンルート」と現在の東京・名古屋・大阪を結ぶ太平洋側のゴールデンルートとの環状新幹線化により、世界的な一大交流経済・文化圏である「大ゴールデン回廊」（沿線人口6,500万人）の創出を目指します。
- この大ゴールデン回廊の中で、自然、文化、産業、食など多彩な魅力を有する富山県をはじめとする北陸がその回廊の重要な一角を担うとともに、富山県が環日本海の拠点県として、人や物の流れに変革をもたらし、世界から注目されることを目指します。

<新たに講ずべき施策>

- 北陸新幹線と東海道新幹線が乗り換えなしで結ばれることによる「環状新幹線」の形成に向け、国などに働きかけます。これにより、将来にわたって北海道、東北から九州、北陸が乗り換えなしで運行することが可能となり、新幹線網の新たな活用策を創出することで、地域経済活性化、訪日観光の起爆剤につなげます。
- 北陸新幹線の大阪開業、太平洋側と日本海側をつなぐ大動脈である東海北陸自動車道の4車線化（当面付加車線設置）、能越自動車道の利便性向上、日本海側の総合的拠点港伏木富山港、富山きときと空港の活性化など陸海空の交通基盤を整備し、富山県の拠点性の強化を目指します。

新幹線に貨物スペースを設置するとともに、東海北陸自動車道の付加車線の速やかな設置と早期の全線4車線化を行うことで、物流の活性化を図ります。これは、我が国の物流機能の選択肢を広げることにもつながり、シェアリングエコノミーの観点からも有効です。例えば、大宮駅での積み込み、新高岡駅での積み卸し後、東海北陸自動車経由で高山市内まで最短時間で一定量の貨物を運ぶことが可能となります。

- 富山きときと空港における新規路線の誘致やLCC・リージョナルジェットの利用など航空ネットワークを充実させるとともに、伏木富山港における国際物流ターミナルの整備や新規航路の拡充など機能強化を行い、さらには飛行機とクルーズを組み合わせた「フライ&クルーズ」を推進することで、環日本海・アジア地域との経済交流の推進を図り、自然豊かで世界有数の大ゴールデン回廊における富山県の拠点性を高めていきます。



(2) 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開

～新興国等をはじめとした成長エネルギーを取り込んだ世界で存在感を示すグローバル戦略の形成～

<展開方向の目標>

経済成長した新興国等の「グローバル」な市場に対し、富山発の工業製品、工芸品、農林水産物等を積極的に売り込み、輸出の大幅な拡大や、当該製品等に係る対日投資を呼び込み、大ゴールデン回廊の形成とともに、日本海側総合的拠点港伏木富山港や富山きときと空港の機能強化による物流の活性化や利便性の向上を進めます。また、国内外の旅行者から選ばれ続ける観光地となるよう、とやまの魅力創出と「世界で最も美しい富山湾」や「立山・黒部」などのブランド力の強化を通じ、世界で存在感を示す「とやまグローバル戦略」を展開します。

<構想>

経済6 「とやまグローバル戦略」の推進

経済7 富山きときと空港における国内外の航空ネットワークの更なる展開

経済8 選ばれ続ける観光地 富山

<ビジョンを実現した際の2045年のイメージ>

富山の有名企業でも、30年前は海外ニーズの把握に苦勞していました。しかし、官民共同のとやま産業海外展開支援機構のサポートも受けて、富山きときと空港や伏木富山港をエクスポート拠点基地として活用することにより、いまや富山の工業製品や工芸品、農林水産物等の品質の高さが経済発展で豊かになったアジアで存在感を高め、県内に軸足を置いた中小企業が海外展開で外貨を稼いでいます。恒例となった日本海最大のフードメッセはアジア各国からも人気で、多数のバイヤーが国内外から駆けつけ、特に富山湾でとれる鮮魚を生きたまま輸出する技術に注目が集まっています。「海のあるスイス」による観光ブランドが定着し、自然をこの上なく愛する欧米人が富山通となって、富山きときと空港を利用し、毎年立山・黒部訪問をリピートしているとのこと。



<概要>

- 富山の風土から生まれた独創性のある高品質な製品・サービスが経済的に成長した新興国等のニーズにきめ細かく応えることで、工業製品、工芸品、農林水産物等の輸出額の拡大につなげるとともに、対日投資の促進など海外からのニーズを取り込んだマルチな経済連携によるグローバル戦略の展開を図ることにより、高度人材や先進的な企業を国内外から引きつけ、更なる高付加価値の製品・サービスを創出することを目指します。

<新たに講ずべき施策>

- 「とやまグローバル戦略」を策定するとともに、「とやま産業海外展開支援機構（仮称）」を官民一体で設立し、農林水産物や加工品、工業製品や伝統工芸品、生産技術、知的財産等の輸出促進をはじめ、企業の海外展開支援や対日投資の促進、留学生受入れなどを専門集団のサポートによりワンストップで推進します。
- 環日本海諸国に加えて、アセアンやインド、南米やアフリカなど今後の発展が見込まれる国や地域との新たな経済交流を促進し、現地ニーズ等を発掘し、その市場の需要を喚起します。
- 世界に長く通用するような高付加価値製品（工業製品や工芸品等）や環境システム、農林水産物や加工品などの輸出拡大を促進します。さらには当該製品やシステムについて、更なるイノベーション、品質の向上を目指します。
- 漁場と近接した伏木富山港の特性を生かした鮮魚輸出の拠点化や、富山きときと空港との連携、東海北陸自動車道など交通ネットワークの充実により日本各地との農林水産物の集出荷を進めるなど、伏木富山港・富山きときと空港を長期鮮度保持が可能な大規模集出荷施設を有する農林水産物の輸出ターミナルとして整備するとともに、産直市場を併設した日本海側最大規模のフードメッセ（見本市会場）を開設し、海外バイヤーとの商談・交流が可能な国際ビジネス拠点を整備するなど、農林水産物のエクスポート拠点基地の整備を目指します。



2016 機械要素技術展

<概要>

- 富山きときと空港は、本県のみならず北陸・飛騨・信越地域など隣県地域においても、国内外への空の玄関口として、国内定期路線で2路線（羽田、札幌）、国際定期路線で4路線（ソウル、大連、上海、台北）が運航しており、環日本海・アジア交流の拠点空港としての機能充実が期待されています。
- 本空港では、基幹路線である富山ー羽田便の便数維持・利便性向上を図るとともに、関西、九州・沖縄などへの新規路線やチャーター便の開拓、LCCやリージョナルジェット等の活用等による国内外との航空ネットワークの充実を図ります。
- さらに、ボーディングブリッジや駐機場等の整備など、空港関係施設の機能強化を進めます。

<新たに講ずべき施策>

- 現在、2018年半ばの納入を目指し、開発・試験飛行が進められているMRJ^(※)をはじめとした、低燃費で航続距離が長いリージョナルジェット等の小型機材を活用することにより、富山きときと空港の新規路線の開拓を進めるなど、国内外の航空ネットワークの充実を図ります。

[※MRJ90LRの場合：座席数92席、離陸滑走路長

1,740m、航続距離3,770キロ。

(例：香港、西安、グアムまで運航可能)]



富山きときと空港

MRJと小型ジェット機の比較

機材	MRJ90LR	A320-214
座席数	92席	110席
航続距離	3,770km	5,090km
離陸滑走路長	1,740m	2,240m

(出典) 数字で見る2015 三菱航空機(株)ホームページ

※ A320-214は、例えば、マニラ、ハノイ、パラオまで運航可能

- こうしたリージョナルジェット等の小型機材を活用した航空ネットワークの充実を進めていくためには、ボーディングブリッジや駐機場等の整備が必要となることから、空港施設等の関連インフラの整備など富山きときと空港の機能強化を推進します。

<概要>

- 世界水準の観光資源である「立山黒部」や「世界遺産五箇山」、世界で最も美しい湾クラブに加盟した「富山湾」などの観光資源の高付加価値化を進めるとともに、他の観光資源の発掘とブラッシュアップを行い、それらを戦略的に情報発信することにより「海のあるスイス」という観光ブランドを醸成し、「選ばれ続ける観光地 富山」を目指します。



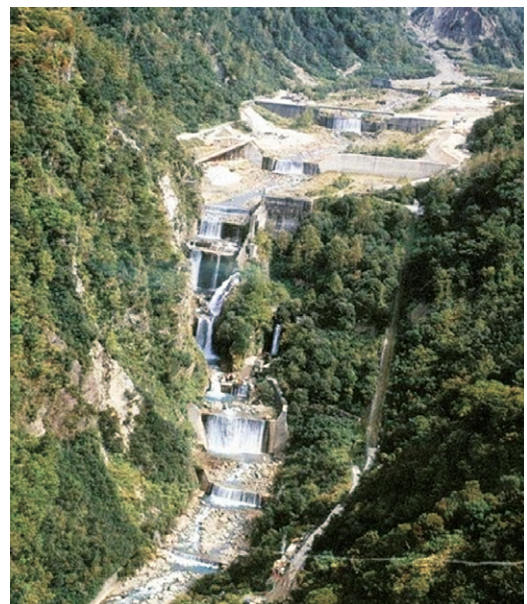
新雪の立山とご来光

<新たに講ずべき施策>

- 立山の雄大な自然や文化に触れてもらうために、立山地域における魅力あるガイドツアーや春スキーなど観光商品化を促進し、一層の観光資源化を目指します。
- 「立山黒部」の世界ブランド化に向け、環境保全と両立させるための魅力の磨き上げに必要な施策について検討を行い、さらなる取組みを推進します。
- 観光資源についてはバラバラに活用するのではなく、それぞれの良さを融合して「海のあるスイス」というブランドを発信していく必要があります。例えば、立山の雄大なロケーションの中で、氷見寒ブリなど富山湾の海の幸の提供と組み合わせた上質な宿泊施設を整備するなど、観光客を富山に呼び寄せる観光資源の融合を推進します。
- 北アルプスを囲む隣県とのアクセスを向上させ、広域観光の展開を図るため、北アルプスゴールデンルートの整備を目指します。



雨晴海岸から見た立山連峰



白岩堰堤砂防施設

(3) 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進

～高齢者や女性のパワーアップ、高度専門人材の育成確保、
クリエイティブ人材の創出など人材戦略の推進～

<展開方向の目標>

「65歳以上は老人」という意識の転換を図り、生産年齢人口の再定義と健康寿命の延伸によりエイジレス（生涯現役）社会づくりを進めます。また、年齢や性別、障害の有無、雇用形態等に関わりなく、すべての人が持てる能力を最大限に発揮できる環境づくりを目指します。こうした施策を通じ、個々人が自らキャリアアップを行い、その能力や経験が最大限発揮される雇用環境を求めて国内外からもクリエイティブ人材が集積する人材戦略を推進します。

<構想>

経済9 生産年齢の引き上げによる高齢者の活用促進（「かがやき現役率」の向上）

経済10 若者、女性、障害者活躍のためのキャリア促進

<ビジョンを実現した際の2045年のイメージ>

「かがやき現役率」日本一富山では、高齢者は自分の好きな年まで元気に健康で働いており、私の隣の席で働く人も74歳とは思えないくらいです。いつもはテレワークの自宅勤務で、テレビ電話・チャットで書類が送られてきて、出社の際には自動運転の安全な水素カーで通勤されています。80歳までにはこれまでの経験を活かして起業されるとのことです。「新たなイノベーション」は高齢者から生まれると豪語する彼には負けてられません。女性が出産や子育てで離職することは過去の話で、今では育児休業を取得する男性も増えていて、男女ともに家事・育児をするのは当たり前になっているし、ロボットが家事・育児・介護も手伝ってくれるから、私は男女とも働きやすくキャリアアップができ、女性が活躍しているプラチナ認証企業に転職しようと思っています。AIによるプログラムで調べたら、私は、対人能力サービスを鍛えれば、年収が上がる環境産業で就職可能とのこと。AIによれば、環境産業はまだ他国では未熟で今後も発展可能だから、その企業に転職できるよう、オンラインコースをAIに作ってもらおうと考えています。実は、私の弟は障害がありますが、技術が進んで、考えていることが全てオンライン上で言語化されるようになったから、数年前から家と目の鼻の先のベンチャー企業で働いています。彼は、プログラミングが得意だから当面はその会社で仕事を続けるみたいです。



<概要>

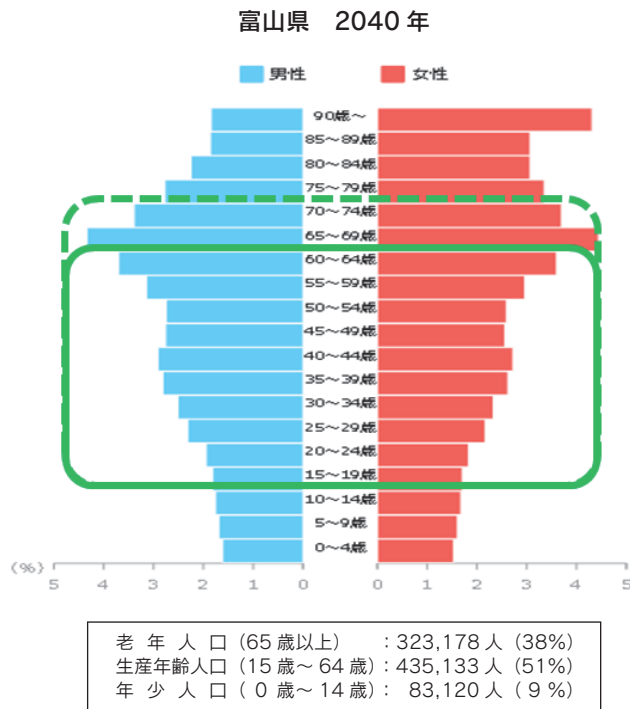
- 高齢者がいつまでも生きがいをもって暮らし、その意欲と能力に応じて職場や地域において活躍し、知識や経験、技能を次世代に継承するなど、例えば65歳以上の就業率といった「かがやき現役率」の向上を目指します。こうして、「65歳以上は老人」という意識の転換を図り、高齢者がいつまでもその潜在的な能力の向上を図り、健康で輝けるエイジレス（生涯現役）社会を構築します。

<新たに講ずべき施策>

- 第4次産業革命後も必要だと見込まれる定型化されない対人サービス等の業務について、豊富な高齢者の知識、経験、ノウハウ、人脈などを活用し、高齢者の活躍の機会を広げます。

ICTを活用して高齢者が例えば自宅から若者に対して遠隔指導すること等により、高齢者の働きやすい環境を整えます。また、高齢者の知識・スキルをデジタルアーカイブ化し、若者にもものづくり技術等を伝承します。

- 高齢者が起業しやすいように、起業に必要な基礎知識、事業承継の方法など高齢者の起業に対して全面的にサポートを行い、生涯現役を目指す人の意欲や夢を創出し、起業・開業への道を拓きます。



- 高齢者が安全に通勤できるよう自動運転機能搭載自動車の利用に対する支援を行ったり、モビルスーツの開発を行うなど、ロボット技術等を活用して高齢者が働きやすい環境を整備します。
- 高齢者が外に出て活動すること（ADL（日常生活動作））を促すスマートフォンアプリ（位置情報を活用した散歩アプリなど）等の開発を活用し、健康で輝ける社会構築に貢献します。

<概要>

- 若者や女性、障害者等が自発的にその潜在的な能力を高められ、年齢や性別、障害の有無、雇用形態等に関わりなく、すべての人が持てる能力を最大限に発揮できる環境づくりを目指します。

<新たに講ずべき施策>

- AI技術で将来の成長分野や求められるスキルを予測・分析することなどにより、オーダーメイドによる職業プログラムの開発、さらには職業訓練による高度人材育成、複線的キャリアアップを推進するとともに、国内外からクリエイティブ人材が集積する人材戦略を進めます。



- 将来、仕事が時間・空間による労働管理（社員が同じ場所で同じ時間、仕事をする）からプロジェクト型の労働管理（プロジェクトの下に様々な立場から人が集まって仕事をする）に転換することにより、若者や女性等が、例えば従来の正社員、非正規社員といった概念にとらわれずに、自分の意思で働く場所と時間を選べる柔軟で自由な第三の働き方を可能にするように努めます。
- AI・ロボット化による家事や育児、介護の負担軽減に関する技術の活用を促進し、女性の潜在労働力を引き出します。
- 若者や女性が個性と能力を十分発揮できる社会を実現するため、働き方改革や女性の登用・再就職の促進に取り組む企業に対する認証制度(プラチナ認証)を構築し、促進していきます。(認証の例) 当面、女性管理職15%以上、男性の育児休業取得率10%以上

- 歩行支援ロボット等の普及、触覚などの感覚機能を備えた義手・義足の活用、コミュニケーションが困難な障害者等が自分の考えを可視化・言語化して伝達する先端技術^(※)の活用促進や、農福連携の推進等により、障害者の活躍の場を大幅に拡充します。

※頭皮上の脳波を測定し、脳内意思を解読してそれをコンピュータが人工音声で読み上げるなどして、意思伝達を行うシステム（言語化）



(出典) 産業技術総合研究所ホームページ